

建築学生ワークショップ日本国際博覧会 2025

全国の大学生たちが小さな建築を、大阪・関西万博会場内に10体実現。



2025年度参加学生

2018年11月23日（日本時間同24日未明）に2025年国際博覧会の開催地が大阪に決定されました。大阪市の最西端に位置する此花区の人工島・夢洲で、日本古来の伝統木造技術で建設される大屋根（リング）を中心に、最先端の建築の博覧会を目指し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに同年4月13日～10月13日迄の半年の期間開催されています。次世代を担うであろう、建築や芸術、デザインを学ぶ学生たちが夢洲に身を置き、場の空気を体験しながら学びを得ることにより、貴重な経験を通じて2025年・夏、小さな建築空間を実現します。

参加者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生

参加校（2025年度）

京都大学 東京理科大学 昭和女子大学 日本女子大学 神戸大学 大阪工業大学 関西学院大学 神戸芸術工科大学 近畿大学 武庫川女子大学 岡山県立大学 北九州市立大学 広島大学 徳島大学 芝浦工業大学 お茶の水女子大学 神奈川大学 前橋工科大学 日本建築芸術大学 東京電機大学 金沢工業大学 摂南大学 東海大学 大阪電気通信大学 東洋大学 大阪産業大学 名城大学

※順不同

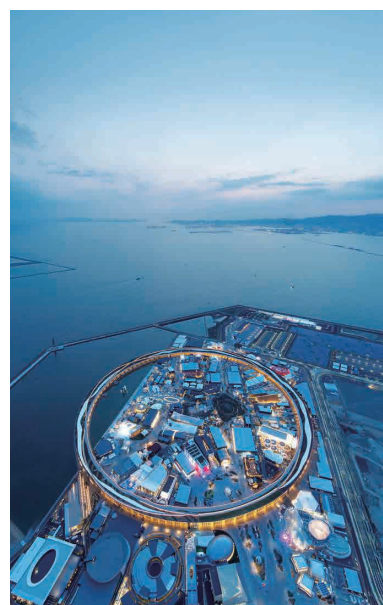
2025年度参加予定講師



公開プレゼンテーション

全国から公募にて募りました、建築や芸術、環境デザインを学ぶ国内外の参加学生ら 44 名が、合宿（期間：9 月 9 日から 15 日）にて大阪・夢洲周辺に滞在し、万博の歴史文脈に基づいた小さな建築を 10 体、9 月 14 日（日）大阪・関西万博境内に実現します。また 9 時 20 分より、EXPO サロンにて開催される公開プレゼンテーションでは、参加学生たちの提案意図や制作の創意工夫を発表し、国内外で活躍する建築家をはじめとした全国の大学で教鞭を執られる先生らと技術者による講評会を開催します。

大学や専攻、年齢も異なる次世代を担う参加学生たちが、歴史的に貴重な日本の聖地の環境に触発され、6 月より現地のリサーチを重ねた経験に基づき、合宿による地域滞在型での制作ワークショップを行います。柔軟な発想で制作した作品と発表、そして厳しくも温かい講評者の貴重なコメントを合わせてお聴きください。今という時代に向き合い学びながら提案し、豊かな発想力のもと実現した小さな建築空間に存在する、新たな価値の発見に迫ります。



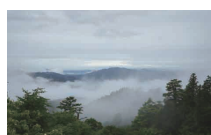
大阪・関西万博会場全景（©Iwan Baan）



2010 奈良・平城宮跡



2011 滋賀・竹生島



2015 和歌山・高野山



2016 奈良・明日香村



2017 滋賀・比叡山



2018 三重・伊勢



2019 島根・出雲



2020 奈良・東大寺



2021 東京・明治神宮



2022 広島・厳島神社



2023 京都・仁和寺



2024 京都・醍醐寺

テーマ

“今、建築の、原初の、聖地から”

2025 年日本国際博覧会

1970 ～ 2025 建築の博覧会～新たな聖地へ～ 50 年後の次開催のために建築ができること



会場全体



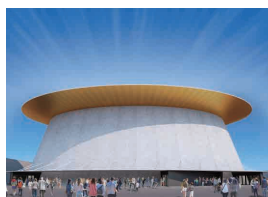
大屋根（リング）



静けさの森



大阪館



「シャインハット」主催会場



「レイガーデン」小催事場

2025 年夏、世界各地から多くの人たちが訪れる日本国際博覧会会場で、小さな建築空間を実現する建築学生ワークショップを開催します。2018 年 11 月 23 日（日本時間同 24 日未明）に 2025 年国際博覧会の開催地が大阪に決定されました。大阪市の最西端に位置する此花区の人工島・夢洲で、日本古来の伝統木造技術で建設される大屋根（リング）を中心に、最先端の建築の博覧会を目指し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに同年 4 月 13 日～10 月 13 日迄の半年の期間開催されます。世界各地から多くの人たちが訪れる日本国際博覧会開催の期間に、大阪・関西のこれからの聖地ベイエリアに滞在して小さな建築の実現をいたします。

「神聖な場所を受け継ぐワークショップ」として開催するこの取り組みは 2001 年から始まり、過去に山添村（奈良県）・天川村（奈良県）・丹後半島（京都府）・沖島（滋賀県）などの関西近郊の各地で行われ、それぞれの過疎化した地域を対象に関西の学生らが提案し、開催地の支援を得ながら、有意義な成果を残してきました。2010 年からは、今までの取り組みの志向を変え、開催地の方たちと広く、一般社会にも投げかけてゆけるように、共同での開催となることを目指し、平城宮跡や竹生島、高野山金剛峰寺や明日香村キトラ古墳、比叡山延暦寺、伊勢神宮、出雲大社、東大寺、明治神宮、厳島神社、そして京都・仁和寺、醍醐寺など、日本の「聖地」とよばれる場所を開催地としています。公募により全国から集まった参加学生たちが、これらの特有な場所がもつ神秘的な力に対してどのようにリサーチし、真剣に考え向き合うのかを検討し、空間体験のできる規模（原寸大の建築）を制作し、建築のプロセス全体を体験する機会として開催しています。

本開催は、公募した参加学生を 5 月 16 日に選出し、10 の班に分かれて、6 月 7 日（土）に全国から大阪に集まり、現地調査を開始します。会場内では、開催テーマとしての位置づけにもあるこの場所が持つ特有の力や意味を身体で感じ、その中から各々の班で発想の原点を見出していきます。さらに万博の文化を学び、いま現代に生き、大阪で学んでいることの意味をみずから問うていきます。

7 月 20 日（日）の提案作品講評会では、国内外にて活躍をされる建築家・構造家の先生方を中心とした講評者の指導のもと、日本における貴重で特殊な環境における場所性に根づいた実作品をつくりあげる意味を問い直し、7 月 21 日（月・祝）の実施制作の打ち合わせでは、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に伝統的な工法を伝えていただく機会を得ながら、日本を代表する組織設計事務所の方々や多くのゼネコンに所属される技術者の皆様による実技指導をいただきます。

9 月 14 日（日）、この参加学生たちが制作した小さな建築が 10 体、大阪・関西万博会場内に実現します。当日は、これらのプロセスを経て創出した建築空間を 1 日だけ、どなたでも体験していただけます。そして、建築・美術両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や美術家の方々、世界の建築構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアなどの講評者にお集まりいただき、公開プレゼンテーションを開催いたします。

開催では、府内をはじめとした大阪周辺の多くの方たちや、これまでの開催地の関係者の皆さま、そして全国から集まる建築に関わる関係者や一般参加者に向けた発表を行います。建築のプロセスに胸を躍らせる 3 ヶ月。参加学生たちが万博の歴史を学びながらこの文化に位置づけた解釈を生み、「建築の博覧会」とも称される最新の技術や構法に触れ、現代の問題を未来へとつなげていく貴重な体験となり、訪れた人たちが空間体験ができる提案の発表に、どうぞご期待ください。

建築学生ワークショップとは？



平城宮跡



竹生島



高野山



明日香村



比叡山



伊勢神宮



出雲大社



東大寺

建築ワークショップとは、建築や環境デザイン等の分野を専攻する学生を対象にした、普段の大学生活では体験できないスケールで作品制作を行う、地域滞在型のワークショップです。国内外にて活躍中の建築家を中心とした講師陣の指導のもと、開催地の歴史や地域環境を研究しながら、他大学生との交流の中でその場所における社会的な作品をつくりあげる経験をするを目的としています。

2010 年、一般社会にも投げかけてゆけるような地元の方たちと共同開催での参加型の取り組みとなっていくことを目指し、「平城遷都 1300 年祭」の事業として、世界文化遺産（考古遺跡としては日本初）にも指定されている奈良・平城宮跡で開催しました。続く 2011 年度は滋賀・琵琶湖に浮かぶ「神の棲む島」竹生島（名勝史跡）にて、宝厳寺と都久夫須麻神社と共に開催。無人島とされている聖地に、地元周辺の方たちと汽船で通う取り組みを行いました。

2015 年は、開創法会 1200 年となる 100 年に 1 度の年に、高野山・金剛峯寺（世界文化遺産）での開催をし、2016 年には、昭和 58 年に北壁の玄武図が発見されてから 30 年を経て公開される直前のキトラ古墳と国営飛鳥歴史公園の開演イベントとして、キトラ古墳の麓に小さな建築を 8 体実現。2017 年には、国宝根本中堂「平成の大改修」始まるの年に、「古都京都の文化財」の一環としてユネスコの世界遺産に登録された、天台宗総本山・比叡山延暦寺にて開催。2018 年は、天皇陛下生前退位をされる前年、満了する平成最後の夏に、伊勢にて開催。2019 年は、「平成の大遷宮」完遂の年に、出雲大社にて開催。2020 年は国内初のブリツカー賞授賞式の聖地に於いて、東大寺にて開催いたしました。2021 年は鎮座百年を迎えた明治神宮にて開催（新型コロナ感染拡大の影響で合宿期間を 2022 年 3 月に延期）し、2022 年は大鳥居の「令和の大改修」の年に厳島神社にて開催。2023 年は「弘法大師（空海）生誕 1250 年の年」に、京都・仁和寺にて開催、2024 年は開山より 1150 年の年に、京都・醍醐寺にて開催しました。

このような日本における貴重でかけがえのない聖地における環境において、地元の建築士や施工者、大工や技師、職人の方々に古典的な工法を伝えていただきながら、日本を代表する建築エンジニアリング企業・日本を代表する組織設計事務所の方々や多くの施工会社の皆様、そして建築エンジニアリング企業の方たちによる技術者合宿指導により実制作を行い、地元・地域の多くの方たちによる協力のもと、原寸の空間体験ができる小さな建築物の実現と、一般者を招いた公開プレゼンテーションを行う等、これまでになかった試みを実施する『全国の大学生を中心とした合宿による地域滞在型の建築ワークショップ』です。



明治神宮



厳島神社



仁和寺



醍醐寺

開催目的



公開プレゼンテーションの様子



作業の様子



地元高校生 × 全国大学生交流会



実施制作打合せの様子



提案作品講評会の様子



各班エスキースの様子

1. 学生のための発表の場をつくる

学内での研究活動が主体となっている学生にとって、一般市民に開かれた公開プレゼンテーションを行うこと自体が非常に貴重な体験となります。また、現在建築界で活躍する建築家を多数ゲスト講師に迎えることで、質の高い講評を参加者は受けることができます。また、ワークショップ終了後の会場での展示や、会期報告としてホームページや冊子の作成を行い、ワークショップの効果がさらに継続されるような仕組みをつくります。

2. 教育・研究活動の新たなモデルケースをつくる

海外での教育経験のある講師を招聘する等、国際的な観点から建築や環境に対する教育活動を行うワークショップとして、国内では他に類を見ない貴重な教育の場を設けます。また、行政や教育機関の連携事業として開催することで、国内外から注目される教育・研究活動として、質の高いワークショップをつくることを目指します。

3. 地球環境に対する若い世代の意識を育む

現在、近畿の各地方には、世界に誇る貴重な文化遺産を有する京都や奈良、琵琶湖や紀伊半島の雄大な自然など、豊かな環境が数多く残っています。しかしながら、近年の社会経済活動は環境への負荷を増大させ、歴史的に価値の高い環境をも脅かすまでに至っています。このワークショップでは一人一人がこうした地域環境の特殊性、有限性を深く認識し、今後の建築活動において環境への配慮を高めていくと同時に、地球環境の保全に貢献する人材を育てていくことをねらいとしています。次世代を担う学生たちが、具体的な経験を通して環境に対する意識を育むことは、環境と建築が共存できる未来へと、着実につながるものと考えます。

4. 地域との継続的な交流をはかる

歴史、文化、自然が一体となつて残る地域の特色を生かしたプログラムを主軸に、特殊な地域環境や、住民との交流によって生み出される制作体験を目的としています。各地域にはそれぞれの土地で積み重ねてきた独自の歴史や文化、風土があり、自然素材を上手く活用してきた歴史があります。短期間のイベントであればそれらを深く知ることはできませんが、数ヶ月にわたる継続的な活動を前提として取り組むことで、より具体的な提案や制作によって、地域に還元していくことができると考えています。



現地説明会の様子



コンセプト検討



計画地案内

開催概要

開催テーマ “1970～2025 建築の博覧会～新たな聖地へ～”

50年後の次開催のために建築ができること

開催希望場所 2025年日本国際博覧会開催会場（大阪府 大阪市）

予定スケジュール 2025年度（令和7年）

2022年 07月01日（金）事業計画（草案）決定

2022年 10月08日（土）座談会の開催

2024年 09月01日（土）参加者募集開始（web公開）・募集パンフレット全国配布

2025年 01月04日（水）プレスリリース配信（雑誌各社への広報）

04月15日（火）アドバイザー会議

05月08日（木）参加説明会開催（東京大学）石川勝

05月15日（木）参加説明会開催（京都大学）藤本壮介

05月16日（金）23:59必着 参加者募集締切

06月07日（土）現地説明会・調査

06月28日（土）午後予定 各班エスキース（東京会場）（大阪会場）於

07月20日（日）～21日（月・祝）提案作品講評会と実施制作打ち合わせ（1泊2日）

07月20日（日）提案作品講評会

07月21日（月・祝）実施制作打ち合わせ

07月22日（火）～09月08日（月）各グループ課題の制作

09月09日（火）～15日（月）合宿にて原寸制作ファイナル（6泊7日）

09月09日（火）現地集合・資材搬入・制作段取り（1日間）

09月10日（水）～13日（土）原寸模型制作（4日間）

09月14日（日）公開プレゼンテーション（1日間）

09月15日（月）清掃・解散（1日間）

制作内容

“想いをかたちにし、〇〇の未来を切り拓く”

ためにあなたの提案を実現化してください

万博期間中に排出されるゴミを使用し三次利用できる材料ならびに、

木、竹、石、土、紙などの自然素材で制作

Architectural Workshop EXPO 2025

予定表

写真は 2024 年度開催の様子

2022年	10月8日(土)	座談会
2025年	4月15日(火)	アドバイザー会議
	5月8日(木)	参加説明会開催(東京大学)
	5月15日(木)	参加説明会開催(京都大学)
	6月7日(土)	現地説明会・調査
	6月28日(土)	各班エスキース(東京会場・大阪会場)
	7月20日(日)	提案作品講評会
	7月21日(月・祝)	実施制作打ち合わせ
	9月9日(火)~15日(月)	現地集合・資材搬入・制作段取り 合宿にて原寸制作(6泊7日)
	9月10日(水)	地元高校生×全国大学生 交流会
	9月14日(日)	公開プレゼンテーション
	9月15日(月・祝)	撤去・清掃・解散



参加対象者 建築および環境デザイン等の分野を学ぶ学生および院生
募集参加人数 60人(大学院生1人+参加学生4~6人)×10班 計55名(上限)+運営サポーター5名(上限)
学生参加費用 実費(宿泊費、保険代、資料代等 約¥100,000 事前徴収制)
※ 現地までの交通費は各自別途負担となります。
※ このワークショップは、ご賛同をいただいている企業・財団、ならびに開催地の有志の方々のご協力と、学生の参加費により運営をしています。

参加講評者 ※日本を代表する講評者・総勢21名による講評
日本の文化を世界へ率いる方々や、建築・美術 両分野を代表する評論家をはじめ、第一線で活躍をされている建築家や都市計画家、アートディレクターや、構造研究を担い教鞭を執られているストラクチャー・エンジニアによる講評。また大学で教鞭を執られ、日本を代表されるプロフェッサー・アーキテクト、コミュニティデザイナー等にご講評いただきます。

石川 勝 (大阪・関西万博会場運営プロデューサー)	櫻井 正幸 (旭ビルウォール 取締役会長)
藤本 壮介 (大阪・関西万博会場デザインプロデューサー)	佐藤 淳 (構造家 東京大学 准教授)
忽那 裕樹 (大阪・関西万博ランドスケープデザインディレクター)	陶器 浩一 (構造家 滋賀県立大学 教授)
中島さち子 (大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー)	芦澤 竜一 (建築家 滋賀県立大学 教授)
前田 浩智 (ジャーナリスト 毎日新聞社 主筆)	長田 直之 (建築家 奈良女子大学 教授)
建畠 哲 (美術評論家 埼玉県立近代美術館 館長)	永山 祐子 (建築家 永山祐子建築設計 主宰)
南條 史生 (美術評論家 森美術館 特別顧問)	平田 晃久 (建築家 京都大学 教授)
堀木エリ子 (和紙デザイナー 京都美術工芸大学 客員教授)	平沼 孝啓 (建築家 平沼孝啓建築研究所 主宰)
五十嵐太郎 (建築史家・建築批評家 東北大学 教授)	安原 幹 (建築家 東京大学 准教授)
倉方 俊輔 (建築史家 大阪公立大学 教授)	吉村 靖孝 (建築家 早稲田大学 教授)
腰原 幹雄 (構造家 東京大学 教授)	

主 催	特定非営利活動法人アートアンドアーキテクトフェスタ
特 別	2025年日本国際博覧会協会
特別共催	文化庁
共 催	大阪府 大阪市
特別協賛	旭ビルウォール 住友林業 吉野石膏 リクシル
地域連携協賛	京都銀行 京都信用金庫 京都中央信用金庫 やまだ屋 りそな銀行
特別連携協賛	大林組 奥村組 清水建設 大成建設 竹中工務店 戸田建設 西松建設 前田建設
連携協賛	ケイミュー 日本ノボパン工業
事業連携協賛	浅沼組 梓設計 鴻池組 コーナン建設 五洋建設 サンユー建設 三和建設 東畑建築事務所 藤木工務店 フジタ 村本建設
協 賛	久米設計 佐藤総合計画 大建設 日本設計 安井建築設計事務所 山下設計
連携協力	東京大学 京都大学
後 援	文部科学省 観光庁 朝日新聞 産経新聞社 日経新聞 毎日新聞社 読売新聞 大阪府教育委員会 アジア太平洋トレードセンター 大阪広域環境施設組合 日本建築学会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会 日本建築家協会 全国建設業協会 日本建築協会 他
助 成	文化財保護・芸術研究助成財団 ※全て予定